世界統一宗教のおこり

英語版オリジナル 「The Rise of the One World Religion」
メッセージ by アミール・ツァルファティ
Behold Israel：http://beholdisrael.org

そして、あなたがたは真理を知り、真理はあなたがたを自由にします。
ヨハネ8:32

今私たちは、皆さんもご承知の通り、終末の時代に生きており、そのしるしは、至る所に見られます。明日は、ある取り組みについてお話しする予定です。エデンの園で始められて、古代エジプト、シリア、バビロン、ギリシャの魔術師を通じて続けられ、最終的には世界統一政府を生み出そうという取り組みについてですが、それは明日にとっておきます。今日は、あらゆるものを神とする、汎神論、多神教が持ち込まれてきているという事実についてお話ししたいと思います。木も神、あなたも神、空も神、あらゆるものが神だから、唯一の本物の神というものがなくて、私たちみんなが神なのです。それはもちろん、あそこから始まったもので、それについても、きちんとお話ししますが、皆さんにお分かりいただきたいのは、一つの政府、一人の世界指導者を受け入れる、要は世界を統一するということです。そのためには、地球全体で一つの世界的宗教体制も作り出さなければならないのです。というのは、宗教だけが、最大限に、あるいは、ほぼ完ぺきに人々をコントロールすることができるからです。宗教が人をコントロールするということは、言うまでもないことですね。特にここフィリピンでも、ある教派が政府、軍、警察、司法制度を文字通り支配しています。ある一つの教派が、一国全体をほぼ支配できるなら、当然、一つの宗教が世界全体を支配することができること、そして、いかにそれが必要かも想像できますね。皆さんがヨハネの黙示録を開いて、第17章まで読めば、著者であるヨハネが17章で2匹の獣について触れていることが分かります。１匹は海から上って来て、もう1匹は地から上って来ます。海から上って来るのは他ならぬ反キリストで、彼は残虐で恐ろしい世界的指導者となります。もう一つ、地から上って来る獣がいますが、これはそれがもうすでに存在していることを意味しています。地にいるのです。そして彼は小羊のような姿をしていて、小羊ですから、罪のない

もののように見えるんです。どちらかというと、神の小羊であるイエスの方を指し示しています。ですから、それは人々に最初の獣を信じさせることになる、何らかの宗教的な人物でなければなりません。それは理解できますか。ですから、私たちは世界的に優勢で、実際にほぼ唯一のものとなろう宗教が出てくるのを、予期しています。そしてまた、その宗教が反キリストの到来を先導することになるのも予期しているのですが、本当に注意深く聖書を調べると、最後には反キリストが、もう一匹の獣を殺すことも分かります。ということは、反キリストは、その世界宗教の指導者を利用して、それから殺すということです。私は何年間もこのことについて、考えて祈ってきました。私には大体は分かっていたのですが、証拠が必要でした。明白な証拠がなければ、他人はおろか、自分を納得させることもできません。私たちは今、驚くべき時代に生きています。そこで私は、そろそろこのメッセージを伝える時が来たなと思いました。その理由はただ、私たちがゴール目前まで来ているからです。私たちは、このことをきっぱりと語らなければなりません。世界宗教、来たるべき、世界統一宗教について憶測する人たちは大勢います。それが、イスラム教だと主張する人も一人ならずいます。彼らは、イスラム教だけが、世界支配の野望を、公式に宣言している宗教だと言います。それは間違いで、真理ではありません。イスラム教が世界支配を望んでいる唯一の宗教であるとしても、それは剣の力でそれを達成しようとするものです。イスラム教徒でない者を皆殺すのだと。世界中で大量殺人を行って、首をはねるのだと。事実、信憑性ありと証明された資料から、数日前に判明したことですが、ISIS が、大きな世界危機を起こす計画をしているということです。それは世界全体を一つのカリフ制国家にしようとする彼らの夢の実現を助けるものです。ところで、イスラム教が、世界宗教となると言う人たちがいるのは、彼らが、反キリストはイスラム教徒であろう、と信じているからです。それは、イスラム教徒が、世界を支配するという人物、マハディの到来を信じているからです。ちょっとここで一つ、説明させてください。いえ、二つにします。私が、なぜそれは間違いだと思うか。私はユダヤ人です。私はユダ族出身のイスラエル人です。私は、イスラム教徒を、救世主として受け入れるようなユダヤ人、あるいはイスラエル人を一人も知りません。それが第一点。二つ目に、私には、なぜイスラム教の救世主が、ユダヤ人に神殿を建てるのを許可し、そして自らを神と宣言するために、ユダヤ教神殿に入らなければならないのかが、分かりません。ですから、イスラム教の反キリストはありえません。また、世界宗教となるの

も、絶対にイスラム教ではありません。皆さんは、「では何がそうなるんだ」と思っていらっしゃるでしょう。私の意見は、その宗教の枠組みはすでに存在しており、それは、その中身を空にしつつ、新しいもので補給しています。現在、それは自らを再形成しています。そして私たちはこの一年で、驚くほどの変化を見てきました。だから、皆さんも知っていなければならないのです。フィリピンは、約90%がカトリック教徒ですね。合ってますか？約90%がカトリックですね。95%？　私は90%だと信じたいです。私はこの国に少なくとも約一千万人のボーン・アゲインした信者がいると信じたいです。それで同意しましょう。

さて、カトリックはローマ・カトリックと呼ばれています。一つ、お教えしましょう。彼らは、そもそもローマ・カトリックとは名乗っていませんでした。コンスタンティノープルで西暦325年に始まったものは、正確には「ローマ」カトリック教ではなく、単なる「カトリック」でした。「カトリック」とは「普遍（ユニバーサル）」という意味です。それが本当の意味です。ご存知でしたか。ですから、ローマ・カトリックではなくて、カトリックです。さて、「普遍」という言葉が意味するのは、彼らが意図したように、世界全体ということです。それは、世界全体に対する宗教枠として意図されたのです。だから、それは「普遍（ユニバーサル）」と呼ばれるのです。他にどんな理由もありません。ユダヤ教は、新しい信徒を探し求めてはいません。イスラム教は、どこでも行く先々で剣の力によって改宗させるだけです。ヒンドゥー教も道教も仏教も、世界の隅々から改宗者を得る努力をしたり、そのために数十億ドルも注ぎ込んだりはしていません。この地上で、カトリック教会だけが、そのための本格的な戦略を持っています。どうぞ鉛筆を用意してください。そして世界宗教になるための、六つのステップを書き留めてください。

一つ目は、キリスト教世界の、内における和解努力です。キリスト教内における和解努力。それは、単にカトリック教会として始まりました。そして10世紀にカトリック教会と正教会とに分かれ、1500年代にプロテスタントと正教会に分かれ、今日では、およそ三万三千に及ぶ分派があります。そして、その根、大元の根が、そこから分かれ出た根をすべて取り戻したがっているのです。そして、それはそうすることに多大な努力を注いでいます。近々、ローマ法王と、ロシア正教会総主教の間で歴史的な会合が持たれようとしています。継続的な取り組みがなされていて、英国国教会は、すでにバチカンの懐に入っています。そうなんで

す。そして、信じられないような話ですが、彼らは今、プロテスタント教会に働きかけています。実際、彼らは目下、非常に巧妙にプロテスタント信徒を引き抜いていますが、その際に、一度もマリアの名を口にしないのです。カトリック教会が成立して以来初めて、特に1500年代に分裂して以来初めて、メッセージを以て、プロテスタント教会に直接呼びかけた教皇。今皆さんにそのメッセージを聞いてもらいたいと思います。ほんの数分ですから。皆さんには使われている言葉に気をつけてもらいたいのです。私は「素晴らしいスピーチだな」と思いました。私も、もう少しで説得されてカトリックに改宗するところでした。

—ローマ・カトリック法王のメッセージ—

「兄弟姉妹の皆さん、イタリア語で話すのをお許しください。英語は話さないので。でも、私はイタリア語で話しているのでもなく、英語で話しているのでもなく、『心から』語っています。それは言語なんです。よりシンプルで、より真実な。そして、この心の言語には特別な言葉と文法があります。文法は単純。規則は二つ。何よりも、神を愛すること、そして他人（隣人）を愛すること、彼らはあなたの兄弟姉妹なのだから。この二つのルールがあれば、私たちは前に進むことができます。私は今ここに、私の兄弟であるトニー・パーマー主教とともにいます。私たちは長年の友人です。彼は、私にあなたがたの会合のことを教えてくれました。今、あなたがたにご挨拶できるのを嬉しく思います。喜びに満ち、同時に切望に満ちたご挨拶を。喜びにあふれるのは、唯一の神であるイエス・キリストを、ともに礼拝し、御父に祈り、その霊を受けるために、あなたがたが歩み寄ったことが、私に喜びを与えてくれるから。神が世界中で働かれておられることが分かるから、私はこのことを嬉しく思います。切望するのは...　周囲で起こっているのと同じように起こっていること。周囲には、互いに愛し合っている家族もあり、互いに愛し合っていない家族もあります。ともに集まる家族と、離れ離れになる家族。私がこう言ってしまうことをお許しいただきたいのですが、私たちは、どちらかというと、離れ離れになっています。離れ離れなのは、私たちの罪のため、私たちのすべての罪のせいです。歴史を通して誤解がありました。長い道のりのあいだ、私たち皆が罪を分かち合ってきました。誰のせいでしょうか。私たち皆に責任があるんです。私たちは皆、罪を犯しました。罪のない方はただお一人、主だけです。私はこの別離が終わり、親交が与えられることを切望しています。私は聖書が語っている、あの抱擁を切望しています。ヨセフの兄弟たちが空腹で飢え始めたとき、彼らは食料を買うためにエジ

プトに行きました。彼らは買うために行ったんです。お金はあったのですが、お金を食べることはできませんから。でもそこで、彼らは食べ物以上のものを見つけました。弟を見つけたのです。私たちには皆、通貨があります。私たちの文化に特有な通貨。私たちの歴史に特有な通貨。私たちは文化的に裕福で、宗教的にも裕福です。私たちには多様な伝統があります。しかし、私たちはお互いに、兄弟として出会わなければなりません。ヨセフのように、私たちは共に涙を流さなければなりません。その涙が私たちを一つにしてくれます。愛の涙が。私は今、兄弟としてあなたがたに語りかけています。分かりやすくお話ししています。喜びと切望をもって。もっともっと切望しようではありませんか。それは、私たちが互いを見つけ出し、互いに抱き合い、イエス・キリストを、ただ一人の主として共に礼拝するべく、私たちを後押ししてくれるのですから。私の話に耳を傾けてくださって、深く感謝しています。私に心の言葉で語らせてくださって、本当にありがとう。あなたがたにお願いもあります。どうか私のために祈ってください。私にはあなたがたの祈りが必要ですから。私はあなたのために祈ります。祈りますよ。でも、私には、あなたがたの祈りが必要なんです。私たちを一つにしてくださるように、主に祈りましょう。さあ、私たちは兄弟なんですから。互いに霊で抱き合いましょう。そして神が始められた働きを、神に完成していただきましょう。これは奇跡なんです。和合の奇跡が始まったんです。イタリアの有名な作家マンゾーニが、かつてその小説の中で、ある素朴な男の言ったことを書いたことがあります。『私は神が奇跡を始めて、それを上手く終わらせなかったのを見たことがない』と。神はこの和合の奇跡を完成させてくださいます。私を祝福してくださるよう、皆さんにお願いします。私も皆さんを祝福します。兄弟から兄弟へ。私はあなたを抱擁します。ありがとう。」
—ローマ・カトリック法王のメッセージ終わりー

　私はマリアの名を一度も耳にしませんでした。それに、見事なスピーチです。正直に認めましょう。素晴らしいメッセージです。私なんか、カトリックに改宗しそうになりました。皆さんに、ここで注意してもらいたいのは、彼が分裂は終わったと宣言したことです。相手方が、「もう終わりです。分裂は終わりました」と宣言したのです。皆さん、これは世界中のプロテスタント教会に急速に広まっているんです。インターネットで見れば、明らかです。私もびっくりしました。今私がこの話をしているのは、そこに巧みに計画された策略があるからです。その甘い言葉に騙されてはいけません。そんなに純真無垢なものではないのです

から。マリアが女神ではないことに同意するとは、誰も言っていません。ワインがイエスの本物の血ではないこと、パンがイエスの本物の体ではないことに同意するとも、誰も言っていません。誰も、違いを少しも認めていないのです。彼らは、私たちを一つにするのは栄光と、お互いへの愛だ、さあ前に向かって進もう、ということしか言っていないのです。注意深く聞いてみると、こう聞こえます。プロテスタントの人たちは、カトリックになるべきだと。でもその逆はありません。カトリック教徒がプロテスタントに転向していると言っているのをあちらでは聞いたことがありません。「プロテスト(抗議)は終わった。だから、あなたがたは、こちらに戻って来なさい。それが、子の心をその父に向けさせるのです。」彼らはそう言っているんです。パーマー氏が言ったことで、最も強烈だったのは...　ところで、パーマー氏は数か月前にオートバイ事故で亡くなったばかりです。そう、あの若い英国国教会派の司教のことです。彼が言ったことで、最も興味深いことがあります。「私たちは、もちろん、キリストの再臨の前にエリヤが来なければならないことを知っていますね。」当然、彼はマラキ書4章6節を引用していて、私たちもそれについては知っていますが、考えてみてください。マラキ書4章はいつ成就されましたか？誰によって？バプテスマのヨハネですね。彼はエリヤの霊で来ましたね。覚えてますか。ヨハネは確かに、イエスが来られる前に、主の道を整えるために来ました。あの司教は、再臨の前に、エリヤが来なければならないと言ったんです。聖書には、そうとは書かれていません。彼は非常に賢くて、世界宗教の指導者をエリヤとして紹介するための道を整えているんです。だからそれは偽預言者と呼ばれるのです。お分かりですね。そして彼はメシヤの到来を告げることになるのですが、それはイエスではないんです。反キリストなんです。ですから、その策略というのはこういうものです。我々は和合しなければならない。和解の霊。まもなく、我々の新しい宗教の指導者がエリヤとして現れ、彼は確実に我々のメシヤの到来を告げることになる。私たちにはこれが本物のメシヤではなくて、それが反キリストであることが分かっていますね。私たちは、ガラテヤ人への手紙1章8節と9節において、次のように書かれていることを覚えていなくてはいけません。

しかし、私たちであろうと、天の御使いであろうと、もし私たちが宣べ伝えた福音に反することをあなたがたに宣べ伝えるなら、その者はのろわれるべきです。

ガラテヤ人への手紙*1:8*

そしてこうも言っています。

私たちが前に言ったように、今もう一度私は言います。

パウロはここでしっかりと念を押してますね。「いいですか、もうすでに言いましたが、もう一度言わせてもらいます。くり返し言っておきますよ」と言うんです。

もしだれかが、あなたがたの受けた福音に反することを、あなたがたに宣べ伝えているなら、その者はのろわれるべきです。
ガラテヤ人への手紙*1:9*

「のろわれる」という言葉はギリシャ語で「アナテマ」です。それは単に「のろう」というよりも、もっと強い意味を持つ言葉なんです。それについて深入りはしませんが、私が言いたいことは、聖書は私たちに警告を与えている、ということです。人々が、それも天の御使いたちのように、非常に尊重されている人たちが、来て、私たちが知っているのとは違う福音を宣べるかもしれない。そして私たちは、決してそれを受け入れてはいけないと。たとえそれが翼の下であっても、神の栄光に覆われていても、和解の霊の下ででも。それでも不十分なら、他にもまだあることを思い出さねばなりません。ローマ人への手紙16章17節を見てみましょう。

兄弟たち。私はあなたがたに願います。あなたがたの学んだ教えにそむいて、分裂とつまずきを引き起こす人たちを警戒してください。彼らから遠ざかりなさい。
ローマ人への手紙*16:17*

大事なのは教義であって、栄光ではありません。いいですか。彼らはあなたに教義なんて忘れてしまえ、大事なのは栄光なのだと言おうとしてるんです。栄光のことは置いておいてください。それには栄光がないと言っているのではありません。ただ、問題となるのは教義なんです。では、もしもあなたが警告されていながら、異なる教義を学んでしまったら、どうして栄光が訪れると期待できるでしょうか。そして、それでもまだ足りなければ、私たちにはそれが進行中のプロセスであることも分かっています。それは去年に始まって、勢いをつ

けており、急速に広まっています。そしてこれはまだ第一地点に過ぎないのです。

さて、世界中で宗教に関わる戦争があることは誰もが知っていますね。そして自然災害が起ころうとしているのも知っていますね。ほら、それが起ころうとしているのは皆さんもご存知でしょう。イエスがそう言ったんです。そのような災害や大惨事が起こると、まず最初にどうなるかと言えば、誰もが信仰が欲しくなるのです。誰もが神の家に駆け込みたくなります。誰もが祭壇にすがりたくなります。誰もが神を探し出したくなるのです。「神は次に何が起こるかをご存知だ。」「私は罪に定められたくはない。」「私には神が必要だ。」危機が迫っているのが分かりますね。宗教上の危機が。ISIS は何億人ものイスラム教徒にとって、非常に興味深いジレンマを引き起こしているんです。なぜかって？私は、何億人ものイスラム教徒が、人々の首をはねようとしているとは思えません。それは、ほんの一部だと思います。ですが、その小さな集団が、「我々が本当のイスラム教徒だ」と主張しています。「我々は確かにムハンマド（マホメット）の命じたことを実行しているのだ。他のやつらは本物のイスラム教徒ではない。彼らはムハンマドに従っていない。彼らはムハンマドの経典に従わないのだから。我々は従っているのだ」と。だから今、「もし、あれがイスラム教だとしたら、私たちは何になるんだろう」と自問しているイスラム教徒たちが、何億人もいるんです。「私たちは、絶対にああいう種類のことはしないのだから」と。それから、イスラエル人、ユダヤ人は悲惨な世界大戦を経験することになります。その戦争には、大量破壊兵器も使われます。確実に、彼らも救い主が来ることを切望し、期待することになります。そして、これらの、これから起ころうとしていることのすべてが、最終的に、色々な宗教をもたらすでしょう。答えを見つけるために。そしてこれが、第二点目です。カトリック教会は、超宗教運動と呼ばれるものを始めました。内側だけではなく、今や、異なる宗教間に働きかけているんです。彼らは、異なる宗教をすべて集めて、手をつないでクンバヤを歌うという、エキュメニカル運動（世界教会一致運動）なるものをずっと以前に始めていました。しかし、今では、それをはるかに超えています。もうフル回転しています。ところで、私が覚えている日があるんですが、それは2000年の12月で、私はロサンゼルスにいて、座ってロサンゼルス・タイムズを読んでいました。すると、その新聞の宗教欄に載っていた短い記事に出くわしました。それはヨハネ・パウロ2世が救いに関して包括的な立場をとるというものでした。私は、これはすごく気になると思い、それで私はその記事を読んでみたのですが、ご存知の通り、

私は新聞というものを信用しません。特に、その内容がローマ教皇や、その説教に関するものであればなおさらです。そこで私は、すぐに、バチカンのウェブページを開いてみました。というのも、バチカンで説かれた説教なら、すべてそこに記録されているからです。そこで私がバチカンのページに行って調べてみたら、あったんです。確かに、2000年12月6日の日付で、ヨハネ・パウロ2世が、12月6日水曜日に、一般向けに次のように言ったのです。これは、実際にバチカンの公式サイトから引用したものです。

—バチカン公式ウェブサイト引用—
「真福八端（八福の教え）の道を選び、『心の貧しい者』として、地のつつましい者たちをその屈辱の塵から引き上げるために物的財とは無縁に生きる者たちは、神の御国に入ります。すべての正しい人たち、キリストとその教会を知らない人たちも含めて、恵みの影響下で誠実な心持ちで神を求める人たちは、それゆえ、神の御国を作り上げるべく召されるのです。」

キリストを知らなくても、キリストの教会に属していなくても、神の御国に入れる。誠実な心さえあればいい。たとえあなたが、何億人もいるイスラム教徒の一人であってもいいんです。あなたの心が本当に誠実で、ISIS に同意しなければ、あなたも神の御国に入れるんです。あるいは、幾度も破滅させられそうになって、もう本当に戦争はしたくない、平和を願っている何百万人ものユダヤ人の一人であっても、神の御国に入れるんです。平和一筋を説く、他の宗教に属していてもいいんです。ヒンドゥー教やら仏教やら、どんなものでも、みんな、神の御国に入れるんです。必要なのは良い心を持つこと、良い人になること、良いことをすることだけだからです。これがウソだと思うなら、ローマ教皇フランシスコの住むサン・マルタ館へ行ってみてください。彼はそこで2013年5月22日に、朝のミサで説教をしました。これもバチカンの公式サイトからの引用です。彼はこう言いました。

—バチカン公式ウェブサイトより引用—
「『神は人をご自身のかたちとして創造された。』そして『神が良い働きをされるのであれば、私たちもみな、この戒めを心に留めましょう。良い行いをしなさい。悪を働いてはなりません。皆です。』主はキリストの血によってすべての人を贖われました。『すべての人をです。カトリック教徒だけではありません。皆です。』無神論者は？『彼らもそうです。この血

が、私たちを神の子としてくださるのです。』」

ただ良い行いをしなさい。良い人になりなさい。たとえあなたが無神論者でも。

それでもまだ足りないと言うなら、この写真は、12日前にサンフランシスコのグレース大聖堂で撮影されたものです。皆さんが今何を目にしているか、お分かりですね。ヨガ教室です。(※補足：ヨガは、偽神の礼拝ポーズです※)　これ全部、ヨガマットなんです。そしてヨガの教室を開いているんです。通路までずっと。カトリック教会は、誰でも来てヨガをして平和を生み出すことができるように、その門戸を開いたのです。ヨガをすると瞑想することになります。それは良いエネルギーで、平和を促進するんです。そこで、カトリック教会が、サンフランシスコで一番大きな大聖堂であるこのグレース大聖堂で、今や、聖堂全体を使って、定期的にヨガ教室を開いているんです。平和をもたらすために。みんなに楽しんでもらいたいと。

国連は世界統一政府を目指していますが、その国連が、統一宗教なるものを生み出しました。これを見てください。国連の宗教連合イニシアティブ、略して URI。これがそのロゴです。おもしろいですね。ところで、これは北米地域のロゴなんですが、ヨーロッパにもあるし、アジアにもあるし、世界中にあるんです。彼らは集まって、それは一つの宗教であると宣言します。宗教間に差異はないと宣言するんです。どれも同じだと宣言するのです。ですから、まずはキリスト教内における統一に向けて働き、それから外に向かって手を伸ばすのですが、数十億ドルも注ぎ込んで、他のあらゆる宗教に働きかけるのです。それには、次のようなことを説教壇から呼びかけることも含まれています。心が良ければ大丈夫、良い行いをしていれば大丈夫、彼らも神の御国に入ることができる。私たちは彼らを受け入れる。彼らが変わる必要はない。カトリック教徒である必要はない。ただ、我々に属せばいいのだ。

3番目です。科学および進化論（ダーウィン説）とのギャップを縮める。いいですか、皆さん。科学および進化論とのギャップを縮めるんです。皆さん、これは理解してください。科学は、長い間、キリスト教にとって本当に大きな問題となってきました。科学はビッグ・バンが起こったと主張します。覚えていますか？そして科学は、ご承知のとおり、進化論を主張します。ほら、「神は魔術師ではなく、万物を今あるように創造したわけではない。ある物

から、別の物へと進化しなければならなかった。」長年にわたって、それには同意しないというのが、教会の立場でした。教会はずっと、インテリジェント・デザインと呼ばれるものを説いてきました。知的存在の創造を。神は、人間を知性あるものとして創造されました。人間は、知性あるものへと進化しなくてもよかったんです。さて、近ごろ、ローマ教皇がある科学施設を訪問した際のことですが、彼はこう言ったんです。「進化論もビッグ・バン理論も本当です」と。（2014年10月28日）「それはどういう意味ですか」と尋ねられると、彼はこう答えたんです。「神は魔術師ではありません。」と。彼は言いました。「神は魔術師ではありません。神は魔法の杖を使って万物を今あるように造ったのではありません。神が創造したものが、今ある形にまで進化したのです。」事実、教皇は「創造論は、それに反するものではない」と言いったのです。それは、何らかの形で始まらなければならなかったから。ですからビッグ・バン理論は間違ってない。それに、どうにかして進化しなければならなかったのだから、進化論も間違っていない。皆さんも、私と同じくらいショックを受けていますか？というわけで、今度は科学とのギャップを縮めるんです。それで科学者たちは今、彼らを受け入れ、自分たちをその団体の一部として見てくれる宗教に、容易に属することができるのです。非難されなくていいんです。それで今、「へぇ～、最近のカトリック教会ってすごく知的なんだね。啓発されてるんだね。」という風に見られるんです。「彼らもやっと分かったんだね。」「私たちがずっと何年も言ってきたことがやっと彼らにも分かったんだね。」

4番目です。これはあくまでも「理解」であって、「促進している」とか、その他の意味のことを言っているわけではありません。「理解」です。イスラム過激派のテロリズムに対する理解。今年の1月に、パリ市の中心で恐ろしいテロ事件があったのをご存知ですか。「シャルリー・エブド」という週刊誌が、ムハンマドを題材にした風刺画を2～3年前に掲載しました。完全武装した二人の兄弟がその本社に突入して、皆にスプレーを噴射し、12人を殺害しました。ローマ教皇は、翌日その事件について尋ねられたのですが、その時の彼の答えを聞いてみてください。シャルリー・エブドに関するフランシスコ教皇の意見：「他者の信仰を侮辱することは許されない。」言い方を変えると、「それは自業自得だ」と言ったようなものなんです。ところで、そのインタビューは、彼の旅の途中、飛行機の中で行われたんですが、「それはどういう意味ですか」と聞かれて、教皇はこう答えました。「もし誰かがやって来て、私の母親のことを侮辱し、悪口を言ったとしたら、私もその人に、平手打ちをくわせるだろう。」

私が今言ったことが分かりますか？12名の死を悼む代わりに、そして宗教にはどんな殺人や殺しの入る余地も全くないと言う代わりに、ここで示されているのは、過激思想への理解なんです。彼は決してそれを促進しているわけではありません。ただ理解すると言っているだけです。ですから今や、その宗教では、イスラム過激派でさえも理解を得ることができるんです。この地球上で、それを受け入れる宗教は他には一つもありません。それを理解する宗教すらも。でも、ここでは、理解されるのです。だから彼らは「ねえ。つまるところ、俺たちも、そんなに悪いもんじゃないんだ。あんな立場にある人が俺たちのことを理解しているんだから」と言っているんです。

5番目です。LGBT コミュニティを受け入れる。レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダーのコミュニティの受け入れです。その方法ですか？テレグラフ紙は、英国で最も大きな新聞の一つですが、2014年3月10日の紙面に次の記事を掲載しました。「カトリック教会は、同性婚を退けるべきではない、ローマ教皇の発言」との見出しで、「フランシスコ教皇は、カトリック教会は軽率に同性結婚を退けるべきではなく、それを検討するべきであるとし、扱いにくい社会問題について、これまでで最も柔軟な姿勢を示しました。」と書いています。彼らはその後、ゲイの教区を持つカトリック神父にインタビューをしました。この人は毎年、ローマに巡礼に訪れているようですが、フランシスコ教皇以前は、15人くらいしか連れて来ていなかったそうです。誰も参加しようとしなかったんです。彼は言います。「でも、フランシスコ教皇になってからは、バスが何台も満員になるんです。何台も満員のバスでやって来るんです。それは私たちはこれでいいんだと思えるからです。自分たちの在り方や、自分たちがしていることに自信が持てるからです。それで大丈夫なんです。」そこでもまた理解があるんですね。

そして6番目です。世界統一政府を作り出す取り組みへの協力。では皆さまにご説明させていただきます。世界統一政府を作り出す取り組みというのは、地球が始まった時からずっと続いているのです。互いに知り合って以来ずっと、彼らはひとつになるために集まって、塔を建て、その一番上に神殿を置きました。下にあるものも、上にあるものも、同等であると宣言するためにです。一つのものとして団結することが、自分たちの力だと、彼らは思ったんですね。そこで神はどうなさったでしょう。彼らを散らされましたね。様々な言語、様々な

国家、様々な民族に。「あなたたちが団結して上手くやることが一つあるとすれば、それは、わたしに反逆することだから。あなたたちは、わたしに祈り、わたしを礼拝するためには集まらない。わたしに取って代わるために団結するのだ。」さて、一つ問題があります。その問題とは、国々が自分たち自身に惚れ込んでいるということです。特に、苦境の時には、何と言いますか、非常に愛国的になります。台風ヨランダがフィリピンを襲ったときは、誰もがフィリピンの国旗を振り、皆さんは団結協力しましたね。皆さんはフィリピン人であることを誇りに思って、兄弟姉妹を助けるために何でもしました。私たちには誇りがあるということを、全世界に示すために。そして、どこかでテロリストが海兵隊を攻撃すると、アメリカでは、誰もが星条旗を手に出ていって、驚くほどの結束を見せますね。9・11の後もすごかったですよ。私はあの場にいたんです。私はニューヨークにいて、あの日の前夜、あのビルに上っていたんです。このことをもう以前にお話ししてあったかどうか覚えていませんが、実際、私はあの日の前日に、もし、何かがこれらの建物にぶつかったらどうなるんでしょうと質問していたんです。私が預言者でないことはご存知ですね。そう申し上げておきましたね。私はあのビルの中にいたんです。私はあのビルの上から、最後の夕日を見たんです。翌日の朝には、それらのビルは消えてなくなったんですから。あの後のアメリカを皆さんにも見てもらいたかったです。確かに、彼らは傷をなめ合いもしましたが、それと同時に、ブッシュ大統領が国旗を持ってグラウンド・ゼロにやって来ると、みんなが叫びました。覚えてますか？U.S.A! U.S.A! あれはすごかった。私はもう鳥肌が立って、とにかくすごかったんです。ですが、それが世界統一政府を求める人たちにとっては問題なんです。彼らはそれが嫌なのです。そこで、彼らは一生懸命に探していました。我々が本当に世界を震撼させて、その恐れのために、国旗のことも国歌のことも国会のことも軍のことも大統領のことも忘れて、性急に団結する必要があることを、皆に理解させることができるのは何だろう。私たちには全くコントロールできないもので、国や民族や旗に関係なく全世界に影響するものは何だろう。気候です。気候。それから彼らはどうしたでしょう。彼らはNASAを使って毎日人を送り出して、大惨事が起ころうとしている、地球は温暖化している、二酸化炭素が記録的なレベルに達した、などと言わせるのです。それでもあまり効果がないから、今度はローマ教皇に、「あなたも話をしてください」と勧めます。そこでローマ教皇は、先ごろ手紙を書いて、その中で、気候危機に対処するための世界政府の必要性を呼びかけているんです。なぜ

かって？気候危機に対処する方法は一つしかないからです。どうなっているかと言うと、仮に、私がアメリカ合衆国を支配しているとして、私が良い大統領で、国民に二酸化炭素の排出を減らさせるとします。ところが他の国はそうしていません。それでは効果がありません。そこで皆を同じように管理し、規制する世界的権威が必要となるんです。我々は複数の指導者たちが、それを実行するのをあてにはできない。それを実行するためには、一つの中心となるリーダーシップが必要なのだ。教皇はそう言ったんです。それが我々に必要なものだと。ですから、もはや宗教の域を超えているんです。それは必要性、差し迫った必要性を呼びこんでいます。そして彼らは、あと数年で氷河がすべて溶けて、海面が上昇し、世界中の島々を水で覆ってしまうだろうと言うんです。フィリピンも含めて。それから私は昨日、彼らが、また氷河期が来るという話をしているのも耳にしました。もうホントにどちらかに決断してもらいたいです。溶けてるんでしょうか、それとも凍ってきているんでしょうか。どうなっているんでしょう。おかしなことに、彼らは本当のことを教えてはくれません。誰も本当のことを言わないんです。本当のことを知っている科学者たちはみんな、口封じのためのお金を受け取っているんです。本当のところは、歴史を通じて、気温の高い時期と低い時期というのがいつもあったのであり、私たちにはそれに対して何もすることができないんです。二酸化炭素の問題じゃないんです。調整することもできないし、コントロールすることもできません。「でも、真実なんか、どうだっていいだろう。もしも、それを止めることが我々の力の及ぶ範囲にあるのだと、人々に信じさせることができたら、そうしたら彼らもきっと世界統一政府の存在を望むだろう。それが我々にとって大事なことなんだ。」

ですから皆さん、その宗教内のすべての分派を受け入れる宗教。その宗教外の他のあらゆる宗教を受け入れる宗教。科学を受け入れる宗教。過激テロに対する理解を受け入れる宗教。性的不品行を一つの在り方として受け入れ、私たちが調べて、結局のところその結合もそんなに悪い考えではないかもしれないと理解するべきだという宗教。世界政府の必要性をさえも受け入れる宗教。私には、その宗教の名前がどういうものになるのか分かりませんが、私たちが、今どの宗教の話をしているのかは、皆さんお一人ひとりが確かに分かっていらっしゃることでしょう。そして皆さんが知っている通り、その宗教の指導者が、最終的に偽預言者となるのです。もしも気を悪くされた方がいたら、すみません。ごめんなさい。でも、私は、真実を語るためにここに来ています。そして真実は時に痛みを伴うものです。でも、皆

さんも、目を覚まさなければなりません。そして私たちが終わりの時代に生きていること、終わりの時代の、まさに終わりに生きていることを理解しなければなりません。偽預言者は、反キリストの到来を先導することになります。反キリストは偽預言者を利用し、打ち負かし、そして殺します。その宗教は長続きはしません。その頭である者が、反キリストによって殺されるのですから。しかし、その宗教が反キリスト到来のための地固めをすることになるのは確かです。今日の世界における情勢や現実は、それほど容易ならぬものなのです。

私は、皆さんが今日、私たちの周りの状況に対する理解を深められたことを願っています。そして、聖書がそれを容認しないこと、皆さんがこの統一体に参加しないからといって、自分たちのことを、悪者であると考えるような余地は全くないこと、オカシイのは彼らではなくて自分たちなのではないか、と思う必要は全くないこと、そして私たち一人ひとりが目を覚ます時が来ていることを、ご理解いただけたことを願っています。今日私たちが取り扱った内容を理解せず、それについて知りもしない人たちがあまりにも多いと思います。私は、皆さんが祈り、それを露呈しさえすれば、多くの人たちが真の救いと真の贖いを求めてキリストのもとに駆け寄って来るだろうと信じています。それは私たちの手にかかっているのです。

あなたがたは真理を知り、真理はあなたがたを自由にします。

ヨハネ*8:32*

アーメン。

――――――――――――――――――――――――――――――

また、彼は私に言った。
「この書の預言のことばを封じてはいけない。時が近づいているからである。不正を行なう者はますます不正を行ない、汚れた者はますます汚れを行ないなさい。正しい者はいよいよ正しいことを行ない、聖徒はいよいよ聖なるものとされなさい。」

黙示録*22:10-11*